

## ドラえもんの国で迎える2020年

日本外国語専門学校 アリファ・アッザーラ（インドネシア）

2020年まであと1年半。今からたった1年半の間に世界がひっくり返るほどのことは起こらないだろうと思いつつ、何かタイムマシンに乗って遠い未来を見に行ったときのような感動に出会えるのではないかと、という期待が私の中にある。そしてそのことが私を毎日わくわくさせている。

日本のアニメ「ドラえもん」はインドネシアでも人気がある。ドラえもんが世の中に登場した1970年代、何でも願いを叶えてくれるネコ型ロボットを人々はどのように見ていたのだろうか。どこにでも、あつという間に移動できる「どこでもドア」。人間が空を飛べる「タケコプター」。大人たちは空想の産物だとバカにしていたかもしれないが、アニメに夢中になっていた子どもたちは「こんなものがあつたらいいな」と真剣に思っていたのではないだろうか。ドラえもん誕生から48年たった今の世界はどうだろう。ドラえもんの世界が現実にあるといってもよい。「どこでもドア」があるかのように、人々は世界中を移動しパスポートに記されている国籍だけでは説明しきれないほど多様なバックグラウンドを持つ人が増えた。タケコプターで上空から下の景色を見ているかのように、ドローンが空を飛び、上空からの景色を私たちに簡単に見せてくれる。ネコ型ではないが、人工知能をもったロボットはまるでドラえもんだ。Siriがなかったら、私の留学生活はもっと苦労の多いものだったであろう。Siri様と呼んでもよいくらいお世話になっている。そして人工知能は日本の伝統的な競技である将棋の世界でも注目を集め話題になった。伝統と最新の技術が同じ場

所にある風景は、留学生の私にとってまさに「日本」のイメージそのものであった。また、不謹慎かもしれないが、日本の被災地で危険な場所まで行き救済活動をするロボットの映像を見たときは、ドラえもんというよりは、スピルバーグのSF映画そのものであった。

全てにおいて進化のスピードが速くなっている今の世界では、2020年までの1年半に天地がひっくり返る何かが起こっても不思議ではないかもしれない。そして、私が2020年に最も期待していることは医療分野における大革新だ。

なぜならば、私は弟を癌がんから救いたいからだ。「髓芽腫」といって世界で年間250〜500人、日本では100人程度しか症例がない珍しい病気である。死亡率は30から40%。弟が7歳の時に腫瘍が見つかった。ちょうどその時私は15歳で高校進学を控えていた。第一志望の高校に合格し、これからの人生に光がさしていたかのように思えたが、弟の治療費を捻出するために第一志望の高校は諦めざるを得なかった。悔しくて泣きたかったが、苦しい癌治療から逃げられない弟を目の前に、そんな私の気持ちをさらけ出すのは非常識に思え、ぐっとこらえた。もちろん、弟の病気が治ることを心から願っていたし、心から心配していた。

幸い、弟の病状が落ち着き私は高校卒業後念願の日本留学をすることができた。最新技術にあふれた日本の世界、現実のドラえもんの世界で過ごす毎日楽しくて仕方がなかった。夢に溢れた毎日を送りながら、平和な世界でたくさん子どもや大人、全ての人が幸せに暮らせるよう「国際関係学」を学びたいという夢もできた。ところが、そんな矢先、また弟の癌が再発したという話を両親から聞かされた。今回は前回以上に化学治療の費用がかかる。家計も一変し、私はまた進学の夢を諦めなければいけないかもしれないという状況だ。今の私の心境を日本語では「崖っぷち」と言うらしい。しかし、なぜだろう。高校進学の時と同じような悔しい気持ちにはならない。弟に対して

も後ろめたい気持ちも全くない。むしろ「大丈夫、弟のことも私のことも絶対に道が開ける」と希望と確信に近い何かを感じている。

空想の世界であったドラえもんの世界が目の前にある。ドラえもん誕生の48年前にはあり得なかった世界が今、こうして私の前にはないか。今は救えない多くの命を救う科学技術が必ず生まれる。オリンピック、パラリンピックをめがけて世界中から人が集まる2020年東京には、そういった技術を生み出すヒントも集まってくるに違いない。

残念ながら私には科学の才能がまるでない。死ぬほど努力したところで、医療分野に革新を起こせるほどの技術開発には直接的に関わることはできないだろう。しかしながら、ドラえもんの国で2020年を迎え、多くの驚きと発見を目の当たりにすることができるチャンスを得た私だからこそ、弟に伝えることができる。そして同じように病気や飢えに苦しむ子供たちに伝えることができる。空想の世界が現実になることを。行動を起こせば、その世界を自らの手で実現できることを。私は大人になってもキラキラと輝く世界は自分達の力で創り出せることを信じ続けたい。

